

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成23年9月8日(2011.9.8)

【公表番号】特表2010-534806(P2010-534806A)

【公表日】平成22年11月11日(2010.11.11)

【年通号数】公開・登録公報2010-045

【出願番号】特願2010-518394(P2010-518394)

【国際特許分類】

F 1 6 C 33/20 (2006.01)

F 1 6 C 17/02 (2006.01)

F 0 4 D 29/046 (2006.01)

F 0 4 D 29/056 (2006.01)

C 0 8 J 5/04 (2006.01)

【F I】

F 1 6 C 33/20 A

F 1 6 C 17/02 Z

F 0 4 D 29/046 A

F 0 4 D 29/056 A

C 0 8 J 5/04

【手続補正書】

【提出日】平成23年7月19日(2011.7.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

装置に取り付けられるとき、軸受筒は圧縮して取り付けられることが好ましい。このように部品は、軸受筒の外側表面の周りで装置の部品中に圧縮してぴったりと押し込まれてもよい。

次に、本発明の好ましい態様を示す。

- 1 熱可塑性ポリマーと円周に配向した連続の高引張弾性率繊維とを含む軸受筒。
- 2 前記連続の高引張弾性率繊維が約 10 cm 以上の長さを有する上記 1 に記載の軸受筒。
- 3 前記熱可塑性ポリマーがフルオロポリマーである上記 1 または 2 に記載の軸受筒。
- 4 前記高引張弾性率繊維が炭素繊維、アラミド繊維、金属繊維、ガラス繊維またはセラミック繊維である上記 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の軸受筒。
- 5 前記連続の高引張弾性率繊維が前記軸受筒の約 10 ~ 約 70 容積パーセントである上記 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の軸受筒。
- 6 前記熱可塑性ポリマーがパーフルオロポリマーである上記 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の軸受筒。
- 7 第 2 部品に対して、および第 2 部品との間で回転する第 1 部品を含み、かつ、上記 1 ~ 6 のいずれか一項に記載の軸受筒中で前記第 1 および前記第 2 部品を接触させる装置。
- 8 ポンプ、圧縮機または液圧式変速機である上記 7 に記載の装置。
- 9 遠心ポンプである上記 7 に記載の装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

熱可塑性ポリマーと円周に配向した連続の高引張弾性率繊維とを含む軸受筒。

【請求項 2】

第 2 部品に対して、および第 2 部品との間で回転する第 1 部品を含み、かつ、請求項 1 に記載の軸受筒中で前記第 1 および前記第 2 部品を接触させる装置。